

▼自由回答

回答いただいたアンケートの38・1%にあたる396人の人が、自由回答にもご記入下さいました。

記入いただいた内容は多岐にわたりますが、特に、道路の整備、商業環境の充実、行財政運営などに対しては、いずれも80人以上の人から意見・要望が寄せられました。

公共交通の整備や土地利用など、都市基盤などに関する内容がこれに続き、次に防犯・交通安全、医療環境の充実などの安心・安全対策、続いて公園・緑地の整備、義務教育、子育て支

援などの子育て環境に関わる内容についてのご意見・ご要望でした。

このうち、例えば道路整備に関しても、身近な道路の整備の要望から、道路整備の遅れに対する指摘、歩道の設置など安全対策、産業振興のための道路の提案など、さまざまな視点からのご指摘・ご意見をいただきました。

また、新しく住み始めた人からは、まだまちの様子がわからずに戸惑っている旨のご意見が多く、買い物に対する不満は、地域や年代などを問わず出されており、改善が求められています。

地区懇談会

広報つくばみらいをはじめ、ポスターや市のホームページなどにより、まちづくりに関心のある市民の方々を募集し、平成23年8月28日の午前と午後に分けて、伊奈地区と谷和原地区の2箇所で開催しました。その概要についてお知らせします。

新基本計画を策定するにあたって、市民の皆さんと行政が、共通の目標に向けたまちづくりを進めていくために、地域での課題・まちづくりに対する意見や提言などをお聞かせいただくことを目的として開催しました。

懇談会では、テーマ1「つくばみらい市ならではの地域性を活かしたまちづくりについて」、

テーマ2「未来を担う子ども達に誇れるまちづくりのアイデアについて」という2つのテーマでご意見をいただきました。また、少しワークショップ的な形式も採り入れ、発言しただき、それを新基本計画の8つの部門に振り分け、その場で横造紙に貼っていくという方法で行いました。



地区懇談会の様子

地域性を活かしたまちづくりのテーマでは、緑が多いなどの自然環境や東京に近いという地域特性を活かすべきだ（都市基盤の分野）、省エネに水力を活用してはどうか（生活環境の分野）、水田地帯を活かしたまちづくり（産業の分野）、旧来からの住民や新しく移り住んだ住民など、多様な人材をもっと活かすべきだ（コミュニティの分野）などをはじめ、数多くの意見・提案がありました。

また、子ども達に誇れるまちづくりのアイデアのテーマでは、ゴルフ場の活用や自動車依存から自転車利用のまちへ（都市基盤の分野）、安心な農作物がある安心して暮らせる子育てしやすいまちを目指す（生活環境の分野）、大会が開催できるような施設や異なる考えや文化

に触れる機会が必要（教育・文化・スポーツの分野）、農作物の加工やブランド化（産業の分野）、ふるさとへの思い出づくりや世話やきいさんが必要（コミュニティの分野）など、さまざまなユニークな意見・提案をいただきました。

各種団体懇談会

それぞれの分野で、市内で活動されている各種団体の代表の方々に、活動の中で感じている意見を直接お聞きするために、平成23年10月3日から6日までの4日間、「農業・商業・観光」「生活環境」「教育・文化・スポーツ」「保健・医療・福祉」の4つの部門ごとに開催しました。その概要についてお知らせします。

4つの部門それぞれの10団体から2人ずつ参加していただき、地域懇談会と同じテーマで、同様のワークショップ的な形式でご意見をいただきました。

懇談会では、特に自分たちの活動分野にとらわれないことなく、自由にご提案や要望が出され、部門ごとに日にちが異なっていたにもかかわらず、同様のご提案をいただくこともありました。その中から、テーマに沿った代表的なご意見を紹介します。地域性を活かしたまちづくりのテーマでは、都市基盤の分野では、農業を活かした健康づくりや、田園風景を活かしたまちづくり、低地部が平らであることを活かした、自転車を利用す



ご意見シート

きる道路環境づくりなどのほか、綱火の見学や間宮林蔵記念館などへの観光にも、まずはそこへアクセスするための道路整備が必要であるとのご指摘がありました。生活環境の分野では、きらくやま周辺に、撮影スタジオの宿泊所としても利用できる避難施設を造ってはどうかというご意見や、農業体験を植え付けと収穫だけでなく、生育途中など通して行い、子どもだけでなく大人も地域の産業に理解を深めてもらうべきだとのご意見をいただきました。教育・文化・スポーツの分野では、間宮林蔵を顕彰して「林蔵の歌」や「林蔵音頭」などを作ってはどうか、また、名勝、偉人、風景などを